

朋友おおいだ

第2号

発行
大分教区仏教壮年会連盟
〒874-0920
別府市北浜3丁目6-36
本願寺別府別院内
TEL 0977-22-0146
FAX 0977-24-7831

『仏壮に願う』



大分教区仏教壮年会連盟会長
大分教区教務所長

野川大卓

今日の世の中は地球規模の問題、日本国内の問題、「いのち」に関わる深刻な問題があまりにも多く、どうしてよいか分からない状況に私たちは陥っているように思います。

「いのち」の大切さを脅かす問題を他人事ではなく私自身の課題として多くの人々と共有し、暗闇に灯火を掲げる努力をし、お念仏に生かされている「いのち」を見つめ直さなければならぬと思います。

そこには私たちが親さまと仰ぐ阿弥陀如来にいだかれてある身であることに立脚し、朋友と手をつないで進まなければなりません。阿弥陀如来は、私たちを救わんと

して常に寄り添い、「南無阿弥陀仏」の呼び声となつて、はたらき続けておられます。阿弥陀如来の本願のはたらきにお任せして、お念仏を申しつつ、如来の慈悲につつまれて、仏教壮年としての道を歩ませていただくのです。

最後になりましたが、8月29日に開催されました、親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け「大分教区門信徒のつどい」のご勝縁に遇わせていただきました意義を受け止め、仏教壮年として、親鸞聖人のみ教えに学んだことを、日常生活で伝え広められることにより、活動が更に充実されますことを願っています。

合掌

親鸞聖人750回大遠忌に向けて



大分教区仏教壮年会連盟理事長

有永俊文

去る8月29日別府ビーコンプラザにおいて「大分教区門信徒のつどい」が、各教化団体の連携のもと、手づくりの会となりましたが、寺院・門信徒の熱心な参加により盛大に挙行されました。多くの皆様とのご縁をいただいたことと感謝しております。

さていよいよ平成23年4月より本山におきまして、大遠忌(平成24年1月16日)のご勝縁に遇わせていただく法要が始まりますが、仏壮でも参加日程を計画していますので、多くの会員の方々の参加を期待しております。

我々の仏壮もこの大遠忌に向け

て連盟化され2年半が過ぎ徐々にではありますが盛り上がりも見られます。しかしながらその反面、未だ寺院における単位の結成は低迷が続いているのも現状です。そこでこの大遠忌をさらなる機縁とし、各寺院での仏壮活動の輪を拡げ朋友の仲間を増やしましょう。その為にもお寺さんと門信徒が同じ目線に立ち、お聴聞のご縁を通じ交流し、お寺にいれば私の悩みや喜びを聞いてくれる朋友がいる、そんな寺院仏壮が結成されることを期待します。我々朋友も協力をおしみませんので、共に頑張りましょう。

合掌

仏教壮年会連盟綱領

われわれ仏教壮年は、
自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、
ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、
心豊かに生きる社会の実現をめざします。

活動報告

キッズサンガ

「子どものつどい」について

ー大分教区・速見組ー

5月30日に、キッズサンガ「子どものつどい」の活動として、『ホテル観賞会』を開催して、ホテルの輝きを通して、「いのち」の尊さや「環境」の大切さを学びました。

新たに立ち上げた「キッズサンガ部門」を組内の若い住職や新院を中心に結成し、仏婦や仏社会



員には、子どもや孫たちを連れて積極的に参加してもらったことに関わってもらいました。

当日は、

組内のホテルの名所（杵築市山香町山浦）の近くの寺院（西法寺・佐藤齊之住職）に集合して、お参りの作法を学び、『らいはいのうた』のお勤めを全員でしました。

その後、暗くなるまでの間、ホテルガイドをしている御堂順暁・願教寺住職からホテルの一生についての話を聞きました。

いよいよホテル観賞、初めて見る子どももあり、たくさん飛び交うホテルに歓声をあげていました。夜のつどいになりましたが、ホテルを通してのつどいは、子どもたちにとって、思い出に残る会になったと確信しています。



参加者：子ども 約30数名

大人 約30名

寺族 10名

「ご縁」

速見組 西光寺 仏教壮年会

三ヶ尻 裕 己

今回この本山参拝を通じて「ご縁」を感じました。西光寺 仏教壮年会に参加するようになってまた一つ自分自身に新しい「ご縁」がありました。

普段、近所にいるが顔を知っている程度の関係だった人たちが、同じ西光寺の門徒と知らず出会い、仏社のメンバーとして行事に参加する。お寺の行事を通じて更なるご縁が、また一つ自分に対しての成長をさせていただきました。

本山参拝という企画も、会を立ち上げる前、組の総会に前会長と出席した時、覚正寺仏社の会長さんが「蛭を育てる事を事業としておこなっている」。

この一言が前会長に火を点け、「会の中でこの仏壮にも負けないことを考えよう」と亀

川(氣質)と、いろいろな企画の中で誕生した計画でした。

亀川夏祭りに出店し、その売り上げで本山に皆で上山しよう！5年計画でしたが、3年で上山することができました。

すべてのメンバーが参加できるわけではなかったのですが、仏壮として企画し、すべてのメンバーが「欲」ではなく、「縁」で行動し、3年という短い期間で実行できました。

西光寺のご縁は不思議と取り巻くものを期待させ、また期待ど通りに実行し、また新たなご縁を生み、それを輪として成長していく感じがします。

あまり住職を褒めたくないのですが、このご縁のきっかけをいただき感謝します。西光寺に感謝します。総代、婦人会、親、じいちゃん、ばあちゃん、家族に感謝します。なにより、個性豊かな仏壮のメンバーに感謝します。

「ありがとう」

法話

間に合いました!!



大分教区 速見組 正善寺 住職
仏教壮年会連盟活動推進講師

藤井 邦 磨

S「初めまして。日出町に住んで十五年になります。」

私「初めまして。何かご相談があるとのことですが?」

S「今、妻が入院しています。医師からよくてあと一カ月のうちと宣告されています。」

私「それは大変ですね。」

S「そのことは妻にはどうしても告げられません。ただ日に日に体力が衰え、鏡に映る自分の姿を見てきびしい病状にうすうす気づいているようです。」

私「一番身近な夫婦間で、本当のこと口にできないのはつらいことですね。」

S「先日、妻から私が死んだら地域の人はあまり深い交際をし

ていないので、身内だけでお葬式をしてほしい、と言われました。」

私「ご自身の“死”について口にされたのですね。」

S「妻の最期の希望を何としてもかなえてあげたいと思っています。自宅から毎日病院へ看護に通う途中、こちらのお寺さんが目に入っていましたのでお願いにあがった次第です。」

私「私でよければ、できるだけ意に添うようにいたします。もし、私が不在の時は若院(長男)がおりますが、それでよろしいですか。」

S「それは結構です。安心しました。心が軽くなりました。これ

で妻への最期の看護を全力で尽くしてあげられます。」

二週間後、妻が亡くなりましたのでよろしく、との連絡がありました。お葬式の後、自宅へ一週間毎の中陰のお参りが始まり、お仏壇をご安置されました。お寺のご法座にも連なり聴聞されました。時々、フラツと本堂にお参りに来たこともあり、徐々に仏縁が深まりました。

そして四年が経過しました。今年の五月中旬、滋賀県の寺院に掛けていた時、自坊(自宅)から電話がありました。「Sさんが弟さん夫婦、妹さんと一緒に来られ、自分の病状が悪いのでこの町を引きあげ、弟妹のいる鹿児島市内の病院に転院することになりました。これ迄のお礼と最期のお別れのご挨拶を兼ねてお参りに来ました。」という内容です。そういえば最近Sさんのお顔を見ないと坊守と話したことがありました。

五月下旬、私は鹿児島県内の寺

院へ「ごうたんえ降誕会法要」(親鸞聖人のご誕生を讃え、お祝いする法要)の布教を約束していました。法要を終えて鹿児島市内の病院へ急ぎました。部屋にはSさんの三人の弟さん夫婦、二人の妹さん、そしてお母さんが居られました。

「兄さん、大分のご院家さんが来てくれたよ」と、妹さんが寝ているSさんに呼びかけました。ゆっくりゆっくりベッドの上に正座されたSさんがしぼり出すような小さな声で言われました。

「私のために態々来ていただきありがとうございます。短い期間でしたが本当にお世話になりました。妻が亡くなり、悲しい、さびしい日が続きました。しかし、お念仏のみ教えが大きな支えになりました。私もそんなに長くはないと思います。仏法に出会い、間に合つて良かったです。」
部屋中のみんなが涙してSさんの話をきいていました。

十日後、Sさんご往生の知らせがありました。

*この原稿執筆依頼を仏壮事務局より受けたのは、その一時間後のことでした。

報告 幹部養成研修会に参加して

大分教区仏壯連盟理事 玖珠組専光寺 畑山 忠 成



平成21年度、仏教壮年会連盟「幹部養成研修会」(平成22年3月13日(14日)が、全国(北海道から沖縄まで)から51名の研修生が参加して、本願寺宗務総合庁舎において開催されました。1月の大分教区の理事会で、教区の行事の今年度の担当ブロック(日田、由布院、玖珠)より2名参加をもらいたいとの要請があり、日田組の、珠山さんと2人で参加させていただくことになりました。

13日午後より、本願寺宗務総合庁舎3階大会議室において開会式、勤行の後、副理事長さんから、研修のねらいについてのお説明がありました。それは、昭和54年の「仏教壮年の結集に関する宗則」の発布により、「全国仏教壮年会議」が設置され、活動が推進されてきました。更なる発展を願い、平成20年に全国組織の「仏教壮年会連盟」連盟化を進めてきました。が、組織率が思うように伸びない、活動の原点は綱領「われわれ仏教壮年は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現をめざします。」にある。親鸞聖人750回大遠忌まで、組織率を50%以上になるように皆さんと取り組んでいきたいと組織の強化のお話がありました。

講義では、「浄土真宗の教義」について、小林顕英講師により、阿彌陀様の智慧の働き、自分の都合で物を見るのが身につけている私のために働きかけてくださっているのが「南無阿彌陀仏」である、一人ではなかつた喜びを、言葉を交わしあい、共に手を携え、励ましあう仲間が朋友であると。ありがたのお話をいただきました。

次に、「基幹運動」について、菊池慈峰講師により、基幹運動は人々の苦悩や差別の現実からの問いを課題とし、その課題を、み教えをよりどころとして、問い、聞き、語り合う中で展開されなければならぬ、「門信徒と僧侶の課題の共有」、「御同朋の願いに応える教学の構築」をめざし、さらに、浄土真宗の教章(私の歩む道)から、宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す同朋教団で、阿彌陀様の智慧と慈悲を伝え、自己共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する、目的を達成するための教団である、「ともいいのちかがやく世界へ」をスローガンに基幹運動を推進しているとお話のあと、問題提起注があり、5つのグループに分かれて話し合い法座が午後6時まで行われました。7時より夕食、グループ別にテーブルが指定され各県の交流が行われました。

14日は、晨朝参拝、9時より全体会、話し合い法座の発表会、講師によるまとめがあり11時閉会式、解散、書院、飛雲閣見学をいたしました。

本山での研修、4名の講師の先生がたのありがたいうたい講話をいただき、現在の社会の荒廃、経済的には裕福になつたように見えるが、人々の、ものの見方、考え方、行動を見てみると自己中心的な事件ばかりが起きているように見えます、今こそ、阿彌陀様の尊いみ教えに従い住みよい社会に変えて行くのが壮年会の役目だと思ひ有難く研修をさせていただきました。

(注)問題提起

阿彌陀様の優しさや温もりに出遇つたよろこびを、確かめあい、分かちあいます。

すべての事実から目をそらすことなく、だれもが「生まれてきて良かった」と言える世の中の実現をめざして、みんな力を合わせて積極的に行動します。悲しみやよろこびの中で、「お寺に行つてみよう」と思つてもらえるようなお寺へとつくりかえて行きましょう。

2010(平成22)年度
大分教区仏教壮年会連盟活動計画
行事計画
総会 門徒壮年結集大会
6月19日(土) 片江 哲海先生
親鸞聖人750回大遠忌法要
お待ち受け
大分教区門信徒のつどい
8月29日(日)
幹部養成研修会
2月12日(土) 13日(日) 本山
理事・組担当合同会議
随時

あとがき

雨の合間の5月の終わり頃、速見組のキッズサンガへ、孫3人を連れ車2台で参加した時の事です。お寺で説明を聞き、現地へ行く。辺りが薄暗くなつて、ホテルが飛び始めた時3歳の孫が小さな手のひらにホテルをのせて私の方へ差し出してきました。

満面の笑顔で、小さな命の灯火をジツと眺めています。こんな小さな子どもたちでも命の大切さ・輝く命の素晴らしさが分かっているかの様でした。私たちも阿彌陀様の手のひらの上で、おみのに包まれて笑顔で見つめられているのかなあ...と思いつつ帰宅しました。今回も、子どもたちに命の尊さを教えられたような気がします。

残暑厳しい折です。皆様も健康に気を付けてお過ごし下さい。来年は元気でご本山へお参りしましょう。合掌

編集委員長 平松 幹 雄
副理事長